

助動詞

下記の A,B,C,D の文章を比べてください。

A.私は英語を話す。
(I speak English)

B.私は英語を話すことができる。
(I can speak English)

C.私は英語を話さなければならない。
(I must speak English)

D.私は英語を話すべきである。
(I should speak English)

文中の下線部分の注目してください。上記いずれの文も「話す」という動詞を使っています。A は単に「話す」と述べているのに対し、B は「話すことができる」と述べています。C は「話さなければならない」、D は「話すべきだ」などと動詞に様々な意味を加えています。このように、**動詞になにかしらの意味を添える機能をもつ言葉を助動詞**といい、これは原形の動詞の前に用いられます(助動詞＋原形動詞)

まずは「助動詞の基礎知識」 (助動詞を勉強する前におさえておきましょう)

※助動詞の否定形

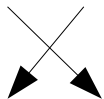
否定形をつくる時は、助動詞の直後に not をつけると成立します。

例★I cannot speak English(私は英語を話すことができない)

※助動詞の疑問文

助動詞を使って疑問文は、主語と助動詞の順番を逆にすると成立します。下線部に注目してください。

例★You can speak English. あなたは英語を話すことができる。(肯定文)



例★Can you speak English? あなたは英語を話すことができますか？(疑問文)

さて、ここではよく使われる基本的な助動詞の意味を一つずつ解説していきます。一つの助動詞に複数の意味があるので、一通り確認しましょう。

「can」

1. ~する能力または技術がある

例★*She can speak Spanish.*

彼女はスペイン語を話すことができる。

2. ~できる状況にある(都合がつく)

例★*I am not busy now, so I can help you with the work.*

私は今忙しくないなので、あなたのその作業のお手伝いをすることができますよ。

3. ~してもかまわない(許可)

例★*You can use this pen. I have my own pen.*

このペンを使ってもいいよ。僕は自分のペンを持っているから。

「could」

1. ~することができた(canの過去形)

例★*He could play piano when he was a child.*

彼は子供のときピアノを弾くことができた。

2. canよりも少し弱い意味(~できるだろう、~するのが可能であろう)

例★*The story seems a bit unrealistic, but it could be true.*

その話は少し非現実的だが、真実にも成りえるだろう。(可能性はある)

3. (疑問文で)丁寧に許可を求める(~してもいいですか?していただけますか?)

例★*Could I borrow your pen?*

あなたのペンをお借りしてもいいですか?

「must」

1. ~しなければならない

例★*He must study English.*

彼は英語を勉強しなければならない。

2. ~であるにちがいない(強い推測)

例★*They must be twins.*

彼らは双子であるにちがいない。

3. (否定形で) ~してはいけない(強いニュアンスで禁止行為に言及します)

例★*You must not be rude to elderly people.*

年輩の人たちに無礼であってはいけない。

「have to」(～しなければならない)

mustと同じ意味ですが、「～しなければならないかった」とか、過去形、もしくは未来形で表すことができます。※mustは時制を表すことができない)

例★*I have to use English at work.* (現在形)

私は職場で英語を使わなければならない。

例★*I had to use English at work.* (過去形)

私は職場で英語を使わなければならないかった。

「may」

1.～してもいい(構わない)

例★*You may call me anytime.*

いつでも電話していいですよ。

例★*You may not bring your own drinks into this theater.*

この映画館に飲み物を持ち込むことを禁止します。

例★*May I borrow your pen?*

あなたのペンを借りてもいいですか？

※may not～、と否定形にすると禁止事項を意味します。

2.～かもしれない(推測)

例★*He may have some ideas for solutions.*

彼は解決のためのアイデアをもっているかもしれない。

3.～でありますように(願い)

例★*May you be happy!*

幸運を祈る！

「might」

1.ひょっとしたら～かもしれない(mayよりも可能性が低い)※mayの過去形ですが、現在形の意味で使われたとき、この意味になります。

例★*The store might be closed already.*

その店はひょっとしたらもう閉まっているかもしれない。

「will」

1.～だろう(未来の予測)

例★*The economy will recover next year.*

景気は来年に回復するだろう。

2.～するものだ(普段の傾向、法則)※未来というより、一般的傾向を表します。

例★*He will often stay up late at night to do homework.*

彼はよく宿題をするために夜遅くまで起きているものだ。

3.～するつもりです(主語が未来に行くことへの意志を表現します)

例★*I will convince my boss to promote me.*

私は上司に私を昇格させるように説得するつもりだ。

「shall」

1.～するつもりだ(強い意志)

例★*I shall get the report to you by tomorrow.*

私は必ず明日までにはレポートをあなたに提出します。

2.～になる(未来の予定)

例★*The work shall be done on time.*

その作業は時間通りに完了されるだろう。

3.～しましょうか？(疑問文で「提案」する意味になります)

例★*Shall we make our way to the restaurant?*

レストランにいきましょうか？

「would」

1.will の過去形(過去形の中で機能する)

例★*Rena said she would come to the meeting.*

レナはミーティングに来るつもりだと言っていた。

2.なにがなんでも～しようとした(過去の強い意志)

例★*He would always look at his watch when he got nervous.*

彼は緊張するといつも自分の腕時計をみていた。

3.～でしょう(will の丁寧語、または弱い意味で表す)

例★*I would buy the house if I had the money.*

4.過去の習慣(以前～していたものだ)

例★*Every year we would light fireworks at the festival.*

毎年私たちは祭りで花火を点火していたものだ。

「used to do」

1.昔～したものだ(過去の一定期間の習慣)※wouldにも似たような意味がありますが、used to doのほうは、現在はその行為はもうやっていない、という意味(現在との対比)が強いです)

例★*She used to go to the gym everyday.*

彼女は毎日ジムに通っていたものだ(今は通っていない)

例★*There used to be more young people in this neighborhood.*

この界隈には、より沢山の若者がいたものだ。

「should」

1.～するべきである

例★*You should put the ice cream in the refrigerator before it melts.*

あなたはそのアイスクリームが溶ける前に冷蔵庫に入れておくべきだ。

2.～するはずである(推量や何かの見込みを表す)

例★*My friend should arrive here soon.*

私の友人はすぐにここに到着するはずだ。

3.(感情的に)～するべき

例★*Why should I listen to you?*

なんで私があなたのいうことを聞くべきなの？

「ought to」

1.～するべきだ(義務)

例★*You ought to bring some medicine on your trip.*

旅の際には薬を持っていくべきだ。

2.当然～だろう

例★*People ought to have a good impression with his great speech.*

彼のすばらしい演説で、人々は当然良い印象を抱くだろう。

「dare」

1.あえて、あつかましくも～する

例★*How dare you look at me like that?*

いったいぜんたいなんでそんな風に僕を見つめるんだい？

「助動詞＋have＋過去分詞の組み合わせ」

※過去のことを振り返って表現することができます。

「must have＋過去分詞」

～だったに違いない(過去に関する強い推量)

例★*They must have travelled very far to get here.*

彼らはここまでくるのにかなり長距離を旅したに違いない。

「may have＋過去分詞」

～だったかもしれない

(過去に関する推量だが must have＋過去分詞よりも意味は弱い)

例★*She may have found the book she wanted.*

彼女は欲しがっていた本をみつけたのかもしれない。

※might have＋過去分詞も同じ意味で使われるが

より may have＋過去分詞よりもさらに推量の意味が弱くなる。ひょっとしたら～、というニュアンス。意味の強さを比較すると下記のようになります。

(must have＋過去分詞>may have＋過去分詞>might have＋過去分詞)

「might have＋過去分詞」

～してもよかったのに(して欲しかった)

※上記とは別の意味です

例★*He might have spent more time with his kids.*

彼は子供ともっと沢山の時間を過ごしてくれてもよかったのに。

「should have＋過去分詞」

～するべきだった(実際にはしていない)

例★*You should have studied more before you took the test.*

試験にを受ける前に、あなたはもっと勉強するべきだった。

「ought to have＋過去分詞」

1.～するきであった(実際にはしていない)

例★*I ought to have consulted my friends.*

私は友人に相談すべきだった

2.(当然)～したはずである

例★*The file ought to have been downloaded.*

そのファイルはダウンロードされているはずだ。

「need to have＋過去分詞」

～する必要があった

例★*I need not have bought so many ingredients for the pasta.*

パスタにこんなに沢山の材料を買う必要はなかった。

「could have＋過去分詞」

1.～したかもしれない(過去に対する推量)

例★*Justin helped him do the work, but he could have done it by himself.*

その作業を完了するために、ジャスティンは彼を助けたのだが、彼はそれを一人でやることもできたのかもしれない。

2.～できただろう(やろうと思えばできたであろうこと)

例★*I wasted 4 hours playing a videogame last night.*

例★*I think I could have studied enough for the examination.*

昨日はビデオゲームをして4時間無駄にってしまった。十分に試験勉強をすることだっただけだと思える。